



目次

館長あいさつ・コース長あいさつ	2
コースの特色	3
教員紹介	5
授業科目一覧	8
特色ある授業	9
さまざまな学びと発表の場	9
入学者選抜試験について	10
学位の取得について	11
修了生の進路	11
学位論文リスト	12
在学生の声	13
学位取得者からのメッセージ	14
総合研究大学院大学について	15
よくある質問	16
国文学研究資料館の概要	17

日本文学研究コースは、国文学研究資料館を基盤機関とする、博士課程後期のみからなる大学院です。国文学研究資料館は、原本資料調査に基づき、膨大な学術情報を集積・研究する先導的な大学共同利用機関であり、本コースでは、同館が創設以来、半世紀にわたって蓄積してきた膨大な文化資源と研究ネットワークを活用しながら、日本文学及びその周辺分野における深い専門知識と関連資料の調査技術・総合的な分析能力の修得を柱とする教育を行います。

具体的には、文化資源のうち文献を主とした二次資料を研究対象とし、専門的な調査技術と総合的な分析力・知識・技能等の修得を目指します。論理的な思考能力や文章表現力、独創的かつ学際的な視点を育むとともに、周辺領域の課題にも取り組み、国内外で活躍できる広い視野を持つ研究者を育成します。

◇大学共同利用機関とは

国内外の大学研究者が共同で利用でき、各種の高度で大型の研究施設や実験設備、貴重な学術資料等を保有する、日本が世界に誇るトップレベルの研究機関です。研究活動の多くは非常に基礎的であるとともに大規模な施設等を要し、莫大な投資を必要とします。そのため、予算や研究効率等の面から大規模な研究活動に必要な人材や研究資金等を重点的に投入し、独創的かつ最先端の研究を行っています。

館長あいさつ



国文学研究資料館長

渡部 泰明

国文学研究資料館は、1972年の発足以来、明治期を含めた国内外の日本文学に関する資料の調査・収集、マイクロフィルム及びデジタル画像による公開を行いつつ、世界の中での日本文学研究の拠点として、事業を進めてきました。2008年に立川市に移転し、広いスペースと行き届いた閲覧機能を持つ、一層充実した環境になりました。

創設以来取り組んできた収集事業に加え、国文学研究資料館では2014年から「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」の10カ年事業に取り組んでいます。人文系領域にとどまらず、あらゆる分野の古典籍のデジタル画像を収集し、データベースを構築するという計画です。日本国内外の日本研究者の研究拠点として、画像データを活用した共同研究も進めています。

総合研究大学院大学文化科学研究科に日本文学研究専攻が設置され、国文学研究資料館がその基盤機関となったのは2003年のことでした。2023年度から、同専攻は日本文学研究コースとなりましたが、教育・研究のための環境に大きな変更はありません。豊富に蓄積された研究書や雑誌類、原典・画像資料を駆使して研究を行えるという点において、国文学研究資料館ほど恵まれた環境は無いでしょう。多彩な教員たちの指導のもと本コースで学び、学位を取得した修了者には、すぐれた業績をあげて、研究者として活躍している人が少なくありません。こうした優秀な先輩達に続く、日本文学研究を志す方々をお待ちしております。

コース長あいさつ



日本文学研究コース長

齋藤 真麻理

日本文学研究コースは、国文学研究資料館の教員18名が指導を担当する、国立大学法人としては最大規模の日本文学研究科です。2003年、総合研究大学院大学の専攻として発足しました。

本コースが基盤とする国文学研究資料館は、国内外の諸機関とともに日本文学に関する文献の大規模な調査研究等を推進し、卓越した研究資源を蓄積してきました。若手研究者が集う研究集会や古典籍セミナー等の開催、隣接諸学との協働に加え、文部科学省の大規模学術フロンティア促進事業等にも取り組むなど、先導的な研究事業を展開しています。本コースの充実した修学環境は、これらの事業と連携して構築されており、ここで学んだ多くの修了生が第2線の研究者として活躍しています。

本コースは博士後期課程のみですから、3年間で学位を取得することが目標となり、堅実な計画性と実行性が求められるでしょう。けれども、まずは自身の知的好奇心を大切に、じっくり文献と向き合って頂きたいと思います。千年を越えて生成継受され、変容し、時に消えていった文芸のすがたことばのもつ奥行き、そこには有限の生を生きる人間とはどのような存在なのかという、根源的かつ現代社会にも通ずる問いも潜んでいることでしょう。

この場所で、文献から発せられる多様な問いに対しつつ、良質な学術資源と知のネットワークを大いに活用し、新たな研究の視座を獲得されることを願っています。

3つの特徴

経済的支援

- 国内外の現地調査、学芸発表などの研究活動の旅費等の支援
- リサーチアシスタント（RA）への積極的な雇用
- 館内での資料複写が無料（上限あり）
- 希望する図書を購入・図書室への配架

複数指導体制

- 18名の教員が広範な教育研究分野から学生をサポート
- 学生一人に対して3名の教員（主任指導教員1名、副指導教員2名）によるきめこまやかな論文指導

充実した教育研究環境

- 国文学研究資料館の膨大な資料を活用した研究
- 院生室、講義室、談話室など学生のための施設が充実

複数指導体制

日本文学研究コースには18名の教員がおり、それぞれの専門を活かした授業科目を担当しています。
研究基礎論では、全ての教員が専門性に即した最新の、また大学院生にとって基本となる内容を講義しています。
学生一人に主任指導教員1名、副指導教員2名の計3名できめこまやかな論文指導を行っています。

経済的支援

学生の研究活動を支援するため、さまざまな制度があります。代表的なものをご紹介します。

- 研究活動の旅費等の支援
研究活動の一環としての資料調査や、学会に出席するための旅費等を補助しています。
- 書籍購入
院生図書室に配架する書籍の購入支援を行っています。
- 資料複写
館内専用の複写機を使用した複写は無料です（上限あり）。
ノートパソコンの貸与等
在学中、ノートパソコンを一人一台貸与しています。
また、院生室には、スキャナー・製本機などもあり、資料整理等がしやすい環境が整っています。
- リサーチアシスタント（RA）への積極的な雇用
日本文学研究コースの基盤機関である国文学研究資料館のリサーチアシスタント制度に基づいて、学生は研究プロジェクト等の研究補助者として補助業務に従事することができ、この業務の対価として給与が支払われます。

充実した教育研究環境

国文学研究資料館には創設以来半世紀にわたって集積された、重要文化財など原本2万点、古籍や近代文献の収集マイクロ資料20万点、歴史史料502件（52万点）、活字資料19万冊があります。
立川の広々とした設備には、院生室・院生専用の図書室・談話室などもあり、学生はのびのびと研究生活を謳歌しています。



院生室



院生図書室



紙焼本の書棚



書庫

教員紹介

日本文学研究コースの各教員の専門分野は次のとおりです。本コースに入学を希望する方は、出願前に、入試説明会等の機会を活用し、指導を希望する教員へ入学後の研究計画や研究内容等について早めに相談してください。

教授 ● 入口 敦志 RIGUCHI Atsushi

江戸時代の学芸のあり方を中心として研究している。講義では、東アジアの出版史の中に日本を位置づけ、その考察から日本文化の特徴を明らかにすることを試みている。著書に『武家権力と文学―柳営連歌、『帝鑑図説』(ぺりかん社、2013)、『漢字・カタカナ・ひらがな―表記の思想』(平凡社、2016)がある。

教授 ● 岡崎 真紀子 OKAZAKI Makiko

平安時代から室町時代までの和歌と歌学および連歌を主な研究領域としている。和歌や注釈書類を分析するとともに、仏教の言説・思想と文学との相関も視野に入れて、和語による文学表現の特性と、それを生み出す人間の思考のあり方について考察している。著書に『やまことば表現論 源俊賴へ』(笠間書院、2008)、『発心和歌集 極楽願往生和歌 新注』(青簡舎、2017)がある。

教授 ● 神作 研一 KANSAKU Ken'ichi

近世文学の種々相を、雅俗と和漢、出版文化史、明清文化の受容等に配慮しながら考察、主著『近世和歌史の研究』(角川学芸出版、2013)は、上方の地下二条派歌人を軸に通信添削の作法様態や地方と中央の関係を追究したものである。漢詩文や俳諧あるいは大名の文事をも射程に収めて研究している。

教授 ● 木越 俊介 KIKOSHI Shunsuke

江戸時代中後期の小説、特に「読本」と呼ばれるジャンルを中心に、「人情本」などにも興味を広げて研究している。さらに、書籍の出版・流通や当時の版權などについても調査している。著書に『江戸・大坂の出版流通と読本・人情本』(清文堂出版、2013)、『霧旅漫録 付・蓑笠雨談』(平凡社、2022)、『知と奇でめぐる近世地誌 名所図会と諸国奇談』(平凡社、2023)がある。

教授 ● 齋藤 真麻理 SAITO Maori

室町時代から江戸時代前期の物語を主な対象に、説話、絵画、芸能、中国明代の出版文化等との連関を視野に入れて分析し、その文学圏域の検証を通して、中近世日本における学芸の諸相を研究している。著書に『一乗拾玉抄の研究』(臨川書店、1998)、『異類の歌合 室町の機智と学芸』(吉川弘文館、2014)、『妖怪たちの秘密基地―くもがみの時空』(平凡社、2022)がある。

教授 ● 西村 慎太郎 NISHIMURA Shin'ataro

歴史学のうち主に日本近世史を専門としている。最近では東京電力福島第一原子力発電所事故被災地の歴史資料保全と歴史・文化の継承を自治体や地域住民と進めている。著書は『近世朝廷社会と地下官人』(吉川弘文館、2008)、『宮中のシェフ、鶴をさばく』(吉川弘文館、2012)、『生実藩』(現代書館、2017)、『大字誌 浪江町権現堂』のススメ 1・2 (いのちの舎、2021・2023)、『そもそもお公家さんってなに?』(現代書館、2023)など。

教授 ● 藤實 久美子 FUJIZANE Kumiko

日本近世・幕末維新期の書籍史料研究およびアーカイブズ学を専門とする。実用書分析と江戸社会の復元的考察、人情情報の商品化のしくみと書物問屋・政權、徳川將軍家の文庫管理、維新政府の官版出版に関する研究がある。編著書『近世書籍文化論』(吉川弘文館、2006)、『江戸の武家名鑑』(吉川弘文館、2008)、『近世日記の世界』(共編、ミネルヴァ書房、2022)。

教授 ● 山本 和明 YAMAMOTO Kazuaki

十九世紀の日本文学、特に山東京伝や石川雅望の読本、加藤千蔭の和学、仮名垣魯文の草双紙などを対象に、作品構想やその出版をめぐる動向について幅広く研究を進めている。著書に『近世戯作の「近代」』(勉誠出版、2019)、『近世後期江戸小説論攷』(勉誠出版、2023)などがある。

教授 ● 渡辺 浩一 WATANABE Koichi

近世都市の社会構造分析およびアーカイブズ学を専門とする。ただし、最近では災害史研究である。また、近世都市の文書保管研究がある。著書『日本近世都市の文書と記憶』(勉誠出版、2014)、『江戸水没―寛政改革の水害対策』(平凡社、2019)、『近世都市(江戸)の水害―災害史から環境史へ』(吉川弘文館、2022)。

教授 ● 渡部 泰明 WATANABE Yasuaki

古代後期から中世にかけての和歌文学を主たる研究領域としている。古代社会の産物である和歌が中世においてなぜ衰微することなく存在し続けたかについて考察してきた。近年は、和歌史全体を扱うよう心掛けている。著書に『和歌とは何か』(岩波書店、2009)、『中世和歌史の研究 模式と方法』(岩波書店、2017)、『雲は美しいか和歌と追想の力学』(平凡社、2023)などがある。

准教授 ● 太田 尚宏 OTA Naohiro

江戸幕府・諸藩において地域支配を直接担当した代官・地役人などが、いかに地域の実情を把握・勘案しながら行政課題を実現していたかを、江戸近郊地域や飛騨幕領・尾張藩領などの記録史料をもとに、支配システムと文書の作成・授受の関係などアーカイブズ学的観点からの分析も行いつつ研究する。著書『幕府代官伊奈氏と江戸近郊地域』(岩田書院、2010)参照。

准教授 ● 菊池 信彦 KIKUCHI Nobuhiko

専門は、デジタル(パブリック)ヒューマニティーズ(デジタル(パブリック)ヒストリー)。成果に、『デジタルヒストリーを実践する・データとしてのテキストを扱うためのビギナーズガイド』(大沼太兵衛との共訳、文学通信、2023年)、『19世紀スペインにおける連邦主義と歴史認識―フランシスコ・ピ・イ・マルガルの生涯とその思想―』(関西大学出版部、2022年)等。

准教授 ● 栗原 悠 KURIHARA Yutaka

1920年代から30年代の島崎藤村の社会思想の受容研究を端緒として、現在では近代文学に描かれた幕末から明治維新期の表象のあり方について研究を進めている。この時代は現代ではさまざまな文脈で近代の始まりの時期として半ば自明視されてしまっているが、小説をはじめとする文学作品における表象の分析を通じてそうした認識が、どのように広まっていたのかを考えていきたい。

准教授 ● 多田 蔵人 TADA Kurahito

永井荷風の江戸文化受容の研究から出発して、日本文学にあらわれた「引用」の意味を明らかにする研究を行っている。小説や詩などにおける「言葉の選び方」が端的に表れる「引用」の役割に着目することで、背後にある文化も視野に入れ、その作品のメッセージを探ることを試みている。主な著書に『永井荷風』(東京大学出版会、2017)、『荷風追想』(岩波書店、2020)など。

准教授 ● ダヴァン・ディエイエ DAVIN Didier

室町時代から近世にかけての臨済宗の思想的な変貌と社会への普及を研究している。所謂五山派と異色の禅風を放った大燈派（主には大徳寺と妙心寺）の新しい社会層との交流を中心に検討しているが、近世に流行った仮名法語などの意義も視野に入れる。著書に『無門関』の出世双六―帰化した禅の聖典（平凡社、2020）がある。

准教授 ● 中西 智子 NAKANISHI Satoko

『源氏物語』をはじめとする平安時代の物語文学を主な対象に、その生成と受容、表現的連関、和歌の引用に関する検討を行っている。著書に『源氏物語 引用とゆらぎ』（新典社、2019）、共編著に『藤原彰子の文化圏と文学世界』（武蔵野書院、2018）がある。

准教授 ● 松田 訓典 MATSUDA Kuninori

「国書データベース」をはじめ、国文学研究資料館において日本の古典籍のデジタル化に携わっている。現在は特に人情報学分野で一般に流通しているテキストと画像のデータ蓄積の手法を基盤として古典籍のデジタル化と利活用の検討に取り組んでいる。学術的背景としては4世紀以降のインド仏教に関する文献学的研究を行っていた。

准教授 ● 山本 嘉孝 YAMAMOTO Yoshitaka

江戸時代・明治時代の日本漢詩文と漢籍の受容に関係する文化史を研究している。近世日本の社会における儒者や文人の生き方、及びそれが日本や東アジアの近代化に作用した過程を明らかにしたいと考えている。著書に『詩文と経世―幕府儒臣の十八世紀』（名古屋大学出版会、2021）がある。

授業科目一覧

授業科目	単位	担当教員
アーカイブズ学入門	2	藤貫 久美子
総合書物論	2	木越 俊介
英語表現基礎演習	2	山本 嘉孝
高等表現能力演習	1	齋藤 真麻理
資源研究演習	1	中西 智子
研究基礎論1	2	神作 研一ほか
研究基礎論2	2	渡部 泰明ほか
書写文化論1	2	岡崎 真紀子
出版文化論1	2	木越 俊介
出版文化論2	2	入口 敦志
資源集積論1	2	太田 尚宏
作品形成論1	2	齋藤 真麻理
作品形成論2	2	渡部 泰明
作品享受論1	2	神作 研一
作品享受論2	2	多田 蔵人

授業科目	単位	担当教員
文学思想論1	2	ダヴァン・ディエイエ
文学芸術論1	2	山本 嘉孝
文学芸術論2	2	山本 和明
文学社会論1	2	藤貫 久美子
文学情報論1	2	松田 訓典
書物情報論1	2	栗原 悠
記録情報論1	2	菊池 信彦
記録情報論2	2	西村 慎太郎



館長室における講義風景



原本と画像を活用した講義

特色ある授業

資源研究演習

本授業では、日本古典籍及び明治期文献についての総合的理解と研究手法の習得を目指す。表紙や料紙といった書物を構成する要素についての理解と分析手法の習得、写本や刊本の成立と伝来に関わる奥書・識語や刊記・奥付に記される情報の理解と分析手法の習得、蔵書印や出版文化の理解といった書物の流通に関わる知識の習得など、書誌学、文献学、蔵書史等に関する複合的な視点から学ぶ。

【到達目標】

● 日本文学及びその関連資料の原典資料（古典籍等）の書誌学的事項についての基礎的な事柄について理解し、実際にデータを習得しそれを研究データとして処理することができるようになる。

研究基礎論

日本文学研究コースのすべての担当教員が前期・後期に分かれ、オムニバス形式で授業を担当する。最大の魅力は、日頃は接する機会の少ない領域の教員からも親しく専門知識を学べる点にあり、多彩な講義内容は視野を広げるためのヒントに満ちている。

【到達目標】

● 文献、画像、記録資料に関する研究の現況及び課題について理解し、説明することができる。
● 本授業で学んだことがらを活かして、自分の考察対象とする資料について、文献学または記録史料研究のなかに位置づけ、説明することができる。

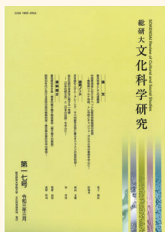
さまざまな学びと発表の場

研究指導や授業のほかにも、セミナーや講習会など、学びの機会が充実しています。さまざまな機会をととして自身の研究を深め、視野を広げることができます。



特別講義

● **特別講義**
本コースの学生の専門性を高めると同時に、広く深い教養と知識を身につけ先進的な日本文学研究を行う優秀な人材を育てるため、毎年、特別講義を開いています。特別講義では、日常の授業ではふれられない角度からテーマを設定し、カリキュラムにはない基本的、応用的、先進的な研究動向などについての講義を行います。個々の専門的なテーマに基づき、その分野でご活躍中のコース内外の研究者をお招きして講義をお願いしています。



● **総研大文化科学研究**
総合研究大学院大学は、査読付き学術雑誌『総研大文化科学研究』を年一回刊行しています。広く国内外から論文等を募集し、文化科学全般について国際的に開かれた総合学術誌として高い評価を得ています。院生にとって身近な論文発表の機会となっています。専門分野にとらわれない学際的、総合的な視野にたつ論文も歓迎しています。

そのほかにも、国文学研究資料館主催の国際日本文学研究集会、日本古典籍セミナー、若手研究者を対象とした古典籍講習会などに参加することができます。詳細については17ページ、18ページをご覧ください。

入学者選抜試験について

◆求める学生像

日本文学研究コースは、次の点を兼ね備えた学生を求めます。

1. 日本文学及びその周辺分野の研究に高い関心と強い意欲を有する人
2. 文化資源を活用しながら研究を進めると、専門的な調査技術と総合的な分析力・知識・技能等を修得することに意欲のある人
3. 論理的な思考能力や文章表現力、独創的視点を有する人
4. 新しい研究を目指して、独創的な視点を有する人
5. 国際的・学術的に研究成果を発信する意志と熱意を持った人

◆入学者選抜の基本的な考え方

1. 第一次選抜（書類選考）においては、志望研究内容等、本コースが提出を求めた資料に基づいて選考を行います。
2. 第二次選抜（論文審査・面接）においては、修士論文等の実証性・論理性・独創性等、基礎的な研究能力を重視し、かつ、論文内容・専門知識・研究計画等に関する口頭試問を通じて、研究者としての適性を判断します。

募集概要

募集人員

博士後期課程 2名程度

出願資格

本学に出願できる者は次のいずれかに該当する者となります。

- A 修士または専門職学位を有する者
- B 修士または専門職学位に相当する外国の学校等の学位をもつ者
- C 修士または専門職学位に相当する学力のある者

入学者選抜日程

出願資格認定 審査※ ₁	2024年11月5日(火)	2024年11月7日(木)
入学願書 受付期間	2024年12月5日(木)	2024年12月11日(水)
願書提出先：総合研究大学院大学 学務課学生係		
第二次選抜※ ₂ (論文審査・面接)	2025年1月30日(木)実施予定	
合格発表	2025年2月中旬	

詳細については、必ず学生募集要項をご確認ください。

※₁ C のカテゴリで出願しようとする方は、事前に出願資格認定審査を行います。

※₂ 詳細は書類選考合格者に対して通知します。

入学者状況

入学年度	志願者数	合格者数	入学者数
令和6年度入学	2	1	1
令和5年度入学	4	2	2
令和4年度入学	4	1	1
令和3年度入学	1	1	1
平成2年度入学	2	2	2

※特定のテーマに基づく科目等履修生・聴講生・研究生も受け入れています。詳しくは総研大ウェブサイトをご確認ください。

学生募集要項及び出願書類様式集の請求方法

学生募集要項は8月末に、PDF版をウェブサイトで公開予定です。出願にあたり出願書類様式集をお求めの方は、郵便番号、住所、氏名、電話番号、入学を希望するコース（日本文学研究コース 博士後期課程）を明記のうえ、左記メールアドレスまで送信してください。

メールアドレス gakusei@ml.soken.ac.jp

学位の取得について

1 修了要件

日本文学研究コースを修了するためには、以下の要件を満たさなければなりません。

- 研究科に3年以上在学すること。
 - 履修規程に定める所定の単位数以上を修得すること。
 - 指導教員から必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。
- 日本文学研究コースを修了すると、博士（文学）の学位が取得できます。

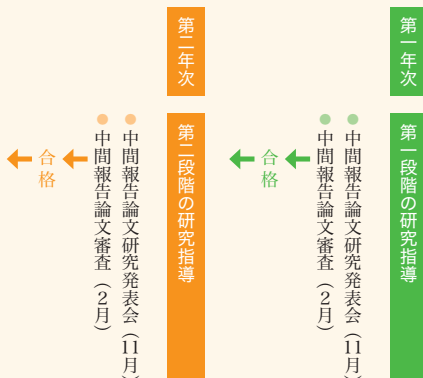
2 博士論文指導

学位取得のためには、博士論文審査に合格することが必要です。博士論文審査を受けるためには、所定の研究指導の段階を経て、博士論文指導を受けた上で、審査への出願を行う必要があります。

日本文学研究コースでは、研究指導を2段階で行っており、それぞれの段階における中間報告論文の審査を経て博士論文指導に進むことになります。

十分な博士論文指導を受けた上で、博士論文審査を受け、合格した場合に学位が授与されることとなります。

3 学位取得までの主な流れ



修了生の進路

青山学院大学ヒューマンイノベーション研究センター、金沢大学、慶應義塾大学、高麗大学、国文学研究資料館、四川外国語大学、湖北短期大学、都留文科大学、東京家政大学附属女子高等学校、独立行政法人日本学術振興会、兵庫教育大学、盛岡大学、早稲田大学、株式会社 創育等

SOKENDAI賞

本学において、特段に顕彰するに相応しい研究活動を行い、その成果を優れた学位論文にまとめ学位を取得した学生に贈られます。

第二年度

博士論文指導

博士論文予備審査

博士論文審査（本審査）

・公開発表会

・口頭試問

合格

合格

学位授与

論文題目	氏名	取得年月	備考
「異国合戦軍記」の研究 —朝鮮軍記物とその周辺—	金 時徳	2010/3	2015年東方文学比較研究会第5回石軒学術賞
上方学研究	一戸 渉	2010/3	2013年9月第6回日本古典文学学術賞
令子内親王家の文芸活動 —院政前期の内親王とその周辺—	高野瀬 恵子	2009/3	
平安後期儒者文化圏の研究	七田 麻美子	2009/3	
「淋敷座之慰」の研究 —近世前期歌謡とその周辺—	中島 次郎	2007/9	
源氏物語 鎌倉期本文の研究	大内 英範	2007/3	

2. 論文博士

合計13名（2024年4月現在）

論文題目	氏名	取得年月	備考
近世中後期における〈知〉の伝播に関する研究 —歌壇・文事・蔵書—	中川 豊	2022/9	
元禄浮世草子の研究	藤川 雅恵	2021/9	
一九〇〇年前後の地方青年における文筆活動の研究 —文章回覧誌を中心に—	木戸 雄一	2021/3	
俳文芸史攷	塩崎 俊彦	2019/3	
藤原教長の口伝『才葉抄』の研究	金子 馨	2019/3	
越前朝倉文化の研究	宮永 一美	2018/3	
明治開化期小説の研究 —仮名返書文と近世戯作—	山本 和明	2017/3	
芥川龍之介文学におけるモダニズムの諸相	高橋 龍夫	2017/3	
万葉集伝本の研究	田中 大士	2015/3	
一九二〇年代から三〇年代の前衛詩運動と満州における日本語文学の研究	小泉 京美	2015/3	
西鶴小説新論 —東アジアへの視界—	染谷 智幸	2013/3	
江戸狂歌壇史の研究	石川 了	2010/3	
中古中世散佚歌集研究	久保木 秀夫	2008/3	

学位論文リスト

取得学位はすべて博士（文学）

1. 課程博士

合計 21 名（2024 年 4 月現在）

論文題目	氏名	取得年月	備考
日本近現代文学に於ける〈精神の両性具有〉表象研究	小野 光絵	2022/9	
『愚管抄』の学問史的研究	児島 啓祐	2022/3	2022年4月第1回説話・伝承学会奨励賞 2022年3月第8回SOKENDAI賞
橋守国絵本の研究 —柏原屋の絵本出版活動と橋守国の作画法を軸に—	古明地 樹	2022/3	2018年度全国大学国語国文学会第118回大会研究発表奨励賞
院政期和歌史の研究 —藤原師実・師通父子を中心に—	花上 和広	2021/3	
香道と文学 —江戸中期の香道伝書による文学受容の研究—	武居 雅子	2017/3	
中・近世語り物の形成と享受に関する研究	桑 汐里	2016/9	2017年9月総合研究大学院大学研究賞
『徒然草』の漢籍受容と漢訳・継承	黄 昱	2016/3	2015年4月第1回総研大未来科学者賞 2016年9月第21回長倉研究奨励賞
建部綾足の研究 和学と和文体読本	紅林 健志	2015/3	
近世前期における古浄瑠璃・説経本文の研究	林 真人	2015/3	
橘曙覧の研究 —漢詩の摂取を中心に—	王 曉瑞	2014/3	
林家の漢詩文と近世前期の俳諧	陳 可冉	2012/3	2013年6月第22回柿衛賞SAA (SOKENDAI Alumni Ambassador)
枕草子における漢文学受容の可能性	張 培華	2012/3	
近世前期朝廷とその周縁の文事 —後陽成天皇八宮良純入道親王を軸として—	大内 瑞恵	2011/3	
近代文学成立期における山田美妙についての研究	大橋 崇行	2011/3	2014年度全国大学国語国文学会文学・語学賞受賞 2020年6月双葉文庫ルーキー大賞
中世前期における和歌表現の研究 —新古今の表現への道筋—	大野 順子	2011/3	

在学生の声

エスカロナエチャニスホセマヌエルさん

私はバルセロナ自治大学在籍時に、初めて日本古典文学に触れました。『万文誌』のカタルーニャ語訳に感銘を受け、原文で読みたいと思いました。大学には古文の指導者がおらず、読むことができませんでした。

大学卒業後は社会人として働いていましたが、再び『万文誌』の原文に興味を抱き、古文を学ぶため、ブリティッシュ・ユニオンピア大学の修士課程へ進学しました。そこで初めて古文を学び、『万文誌』を原文で全文読み、その英訳も試みました。また、『日本旅行文学』の授業をきくかけに、江戸時代の漂流記『亜墨新話』を知りました。『亜墨新話』はメキシコに辿り着いた日本人の実話で、メキシコの挿絵やスペイン語の単語を多く含んでいます。資料が大学に所蔵されていたこともあり、特に興味を惹かれ、修士課程修了後も『亜墨新話』の研究を続けることにしました。

総合研究大学院大学の日本文学研究コースは、国文学研究資料館の多様な資料を活用できる点や資料調査にかかる費用の手厚い支援がある点に魅力を感じ、昨年度は研究生として所属し、今年度、本コースに入學しました。研究生として所属し、全国各地の機関に写本調査に赴き、古典籍に関する貴重な情報を得ることで研究を進めました。現在は、指導教員のもとで『亜墨新話』に関連する漢文と漢詩のテキスト分析をしています。江戸時代の漂流記の中で「海外」がどのように伝えられたかを明らかにし、漂流記の新たな解釈を目指しています。

これから多くの論文投稿や学会発表に挑戦し、教員や先輩方の助言を受けながら、研究成果を出せるよう努めます。

学位取得者からのメッセージ

児島 啓祐さん

2025年3月卒（課程博士）
総合研究大学院大学日本文学研究コース卒業
2021年度「SOSKEIDAI」賞受賞
※特別推薦賞に選ばれた研究活動について、学位取得後に海外で論文を発表する。学位取得後に海外で論文を発表する。

書誌学への苦手意識から日本文学研究専攻へ進学。

正直なところ、私は書誌学への苦手意識が強いので、そんな私が古典籍の宝庫、国文学研究資料館に設置されている日本文学研究専攻を進学先として選択し、書物のヘシヤリスである落合博志先生に主に指導教員をお願いしたのは、和を扱ったことへの不安や恐怖を克服したいという思いがあったからでした。学位を取得した今も相変わらず不得手です。とはいえ、ほんのすこしだけ、入学以前よりは苦手意識がうすらいただけです。それは在学中、現物を見るこの意味を肌で感じる瞬間があったからです。

文献調査のため全国各地へ。現物を見たからこそ発見。

私の研究は『愚管抄』という歴史書を読むことです。これまでずっと活字本を読んできました。ただ文章不通の本文が多いなど気がかかってはいたのです。注釈書や現代語訳を読んで断に落ちないことも多々ありました。次第に、そもそも底本に問題があるのではないかと感じるに至りました。そこで思い切って、日本古典文学大系の底本である島原図書館所蔵の写本を見に行ってきたのです。これが私にとっての転機でした。調査してみたところ、島原の『愚管抄』には三種類の紙が使われていたのです。行数も二種類ありました。つまり、取り合わせ本である可能性が浮上ってきたのです。あわせて、本の寸法、外題や題箋、蔵書印などを調べてみたところ、やはり取り合わせの疑いは強まるばかりでした。

そこで各地の『愚管抄』を調査し伝本整理を行って、島原の本を分類してきました。すると確かに三つの本文系統を有することが判明したので、これまでは完全とわかれてきたので衝撃的な発見でした。現物を見なくては決してわかっていなかったのです。

日本文学研究コースを志す方へ

こうした研究ができたのは、落合先生をはじめとする先生方のお導きで、国文学研究資料館の環境のおかげです。これから本コースで学ばれた方がアドバイザーできることはほとんどありませんが、尊敬する先輩から幾度もかけていただいた言葉を代わりに贈りたいと思います。「勇気が大事だよ」。

坂井 彪さん

私は中世の様々なテキストで見られる宝剣（草薙剣）叙述に関する研究を行っています。その上で、多くのテキストを扱うことが肝要になります。『日本文学研究コース』の基盤機関である国文学研究資料館には、原本資料、紙焼き写真本、マイクロフィルム、その他図書や雑誌等、膨大な資料があるので、これらを活用して日々研究を進めています。本コースの院生は、書庫に立ち入って資料（貴重書や特別コレクション等）を除くを直接手に取ることができ、貸出の手続きを行えば、資料を院生室に置いておくことも可能です。国文研の豊富な資料を思う存分利用できる点こそが、本コースの最大の魅力と言えるでしょう。

恵まれているのは資料だけではなく、本コースには、研究に必要な書籍代、資料調査及び学会参加にかかる旅費、学会費等の補助、リサーチアシスタントへの雇用といった経済支援制度があります。また、研究設備も整っており、院生一人につきノートパソコンが台貸与される他、最近では院生室に二種類のスキャナーが導入されたばかりです。さらに、国文研の図書館とは別に、いつでも自由に使える院生図書室があり、ここには院生の希望に応じた図書が配架されます。このように、複数の面で恵まれた環境に身を置いて研究に打ち込むことができるのです。本コースの先生方のご専門は多種多様なため、授業もバラエティーに富んでいます。中でも、先生方がオムニバス形式で講義をしてくださる研究基礎論は、一年を通して多岐にわたる分野や領域のお話が回えるという点で、院生の間で人気となっている授業です。

小野 光絵さん

2025年9月修了（課程博士）

本専攻の院生としては私の研究内容は少し異なりましたが、進学を考えている方々にはあまり参考にならないかもしれませんが、主な研究対象は尾崎紫、倉橋由美子、中井英夫などの、幻想性の強い日本近現代文学です。人が身の人間として生きる上で自分自身の中からこれ落こしまし、理想の在り方が、いかに感じているかという具体的ありように強い関心を持ってきます。博士論文は、日本近現代文学に於ける「精神の両性具有表象研究」という題目のもと執筆しました。

本専攻を志す決め手となったのは、時には講義がマツリマンになることも珍しくない、ごく少数人数での指導環境です。単に学生の数が少ないだけでなく、学生数に対して先生が大勢在籍されているという点が本専攻の大きな特色の一つです。2022年時点で先生の数が約20名という、国立大学法人としては最大規模の日本文学研究科となっております。だからこそ、一人の学生につき指導教員の先生が三人という、信じられないほどに手厚い体制が実現されています。広々とした机に一人一台のノートパソコンが貸与されている院生室に、学食されるように、一人の学生が大切にしています。博士後期課程への進学先を選んでいた際、当時在籍していた大学院、お世話になっていた先生に勧められたことが契機となり、入学説明会への出席を経て受験を決めました。

学位取得までに苦労した点は少なありませんが、一番の悩みは研究対象の絞り込みと研究テーマの設定でした。私が強い関心を持つ作家のテキストはどれも親近感が高く、だからこそ、具体的なテクニク分析と、それを背後で支える実証的なフロントのバランスにも苦戦しました。量から質に集約した丹念な研究を重ねるまで、本専攻の風土から、私に欠けていた多くを学びました。また、ここまで研究を続けてこれたのは、指導教員の先生方の忍耐強い指導のおかげに他なりません。

日本文学研究コースが気になられている方は是非、入学説明会への参加をお勧めします。

水嶋 彩乃さん

私は日本文学研究コースにて、鎌倉・南北朝期の公家社会と芸能」というテーマで研究を進めています。当該期の公家社会の構成員がどのような人的・社会的関係を結んでいたかと、その諸関係を前提に芸能、特に管絃がどのように担われてきたかを分析しています。

充実した研究指導と研究支援を受けた初年度を終え、本コースの進学を決断して本当に良かったと感じております。

講義では、研究テーマと密接に関係する、近世朝廷と公家の家業について学ぶことができました。受講前は、自身のテーマの最終的な到達点が近世の家業との接続になるだろうと漠然と考えていましたが、講義の中で家業という概念が想定以上に流動的だったことに気づき、研究の方向性を定めることができました。

中間報告論文の報告会は、私にとって大きな刺激となっています。私は在職しながらの在学であるため、仕事と学業を両立するうえで、ペースの配分は非常に大切になります。中間報告論文を完成させるという目標が近くにあることで、研究を前進させることができました。また、他の在学生の皆さまと共に報告を行うことも、励みになりました。多くの先生方から報告に関するご助言をいただけることも、本コースならではの感覚です。

研究支援については、オンラインでの報告会対応など、細やかな配慮をいただき、感謝しております。特に、個人では契約できないデータベースをコースで導入いただいたことで、進捗前と比べて研究環境が飛躍的に改善されました。この恵まれた環境を最大限に活かせるよう、日々考えながら、積極的な研究を進めていきたいです。

中川 豊さん

2025年9月学位取得（論文博士）
中央大学准教授

博士論文提出まで

私の研究は、近世土歌人鳥丸光采の和歌活動を鳥丸家図・家集・日記等に基づいて整理するところから始まり、「鳥丸光采の研究」のタイトルで博士論文を提出しました。かれこれ四半世紀前の話です。その後、10年近く典拠の整理と分鏡自筆の作成、郷土資料の展示・公開誌・図書館だよりへの執筆紹介などを担当する臨時職員として、国文学館に9年ほど勤務しました。その間に出会ったのが館所蔵「稲垣文庫」橋本文庫といった特別コレクションです。これらのコレクションの資料を書誌学的知見により蔵書史研究を追求してきました。近年は本館館長を主軸とした伊勢における文事にも研究領域を広げています。

博士論文執筆と公開発表会

博士論文の提出が決まり、編集と執筆に取りかかりましたが、遅滞として進みませんでした。既発表論文を取捨選択して各論文と向き合い削除・加筆修正し、論集として体系化するために整合性をとりつつ、論文を配列するに苦しみました。現在よりもさらに拙い過去の自身を再会して、直視できず思わず目を背けたくなる衝動に何度も駆られていました。対面の公開発表会とは異なる「章・光采門松井政豊の和歌活動」を選び発表しました。松井政豊は鳥丸光采の門弟で医家・傍ら光采に入門し、鳥丸門人への和歌指導・入門者幹旋師を招聘しての歌会の設定など、光采の右腕となつて門をまとめました。上方地下歌人である松井政豊の動向を探ることで、鳥丸門の組織的な運営形態を追求し、堂上の知と権威が拡散していく様相を政豊の和歌活動の手控資料などに基いて説明しました。公開発表会とその後の口頭試問で先生方よりご教示いただいたことは、今後の研究を広げ、深く探求していく契機となりました。

博士論文の取得を目指す方へ

私のように長く学取の機会を逸してきた方がおられると思いますが、少しでも博士論文を提出する気持ちを抱えるのであれば、早く提出するべきだと強調します。論文は最新の研究成果を反映しなければなりません。論文の初出から時間が経過すればするほど更新に時間を要してしまいます。また口頭試問から次に研究の新たな視点も獲得できるので、提出は早いほどいいです。

総合研究大学院大学について

創設の趣旨

総合研究大学院大学は、大学共同利用機関等との緊密な連係及び協力の下に、世界最高水準の国際的な大学院大学として学術の理論及び応用を教育研究して、文化の創造と発展に貢献することを理念に、1988年に我が国最初の独立大学院大学として創設されました。

総研大の最大の特徴は、大学共同利用機関等の世界トップレベルの研究環境を教育の場としている点にあります。

大学共同利用機関は、個々の大学では整備できない大規模な施設・設備、大量のデータや貴重な資料等の研究資源を全国の大学の研究者に提供するとともに、国内外の研究者との多彩な共同研究を通じて、我が国の先端学術を牽引する研究拠点の役割を担っています。

総研大は、そのような基盤機関の優れた研究環境において、各研究分野の豊富な研究者集団を教授陣とし、高度な専門教育を提供します。

自立した研究者の育成

総研大は、「自立した研究者」として必要な、5つの力量を備えた博士人材の育成を行います。

◆専門力

自らが専門とする学術領域に蓄積された知見と方法論を修得し、それらを応用して高度な研究を推進することができるよう。

◆独創性

自らの専門性に立脚しつつ、学際的な視点から周辺領域の課題に取組み、幅広い学術の進展に資することができるよう。

◆学際性

研究を通して事象を深く理解し、自由な着想に基づいて未踏の課題に挑戦し、新たな知的価値を生み出すことができる。

◆国際力

自らが行う学術研究の社会的な意義や位置づけを認識し、研究者としての倫理観と責任感を持って行動することができるよう。

◆倫理性

国・地域・言語・文化・性別・宗教などに捉われない理解と協働に基づき、高い普遍性をもつ学術成果を発信することができる。

先端学術院について

総研大は、世界最先端の研究拠点を教育の現場として、高い専門性を持った博士人材を育成してきました。

一方で、刻々と変化する学術分野の動向や社会の要請を踏まえ、複合的・融合的な課題に取り組む博士人材を育成していくには、高度に専門的なリソースをより分野を超えて柔軟に活用できる体制が必要で。

そのため、総研大はこれまでの教育体制を見直し、2023年4月1日、先端学術院を設置しました。同時に、新たに国立国語研究所及び総合地球環境学研究所を、本学の基盤機関に迎え、教育環境の更なる充実を図りました。

先端学術院では、基盤機関に支えられた20コースが設置されます。これにより、学問分野の垣根を超え、基盤機関の多彩な教育リソースを全学でより柔軟に活用できる教育環境を提供します。

よくある質問

Q1 他大学の文学研究科と比べてどのような特徴がありますか。

最大の特徴は、大学共同利用機関である国文学研究資料館を基盤機関とした、博士課程後期のみ大学院である点です。国文学研究資料館は国内外の研究者が集うトップレベルの研究機関で、重要文化財をはじめとする膨大な研究資源と、国内外の充実した研究ネットワークを有しています。本コースではそれらを縦横に活用し、最先端の研究に触れながら、深い専門知識と総合的な分析力を修得できます。なお、総合研究大学院大学はすべての大学共同利用機関を基盤機関としているので、他コースの授業も受講でき、視野を広げるのに最適な環境といえるでしょう。

Q2 3年で学位を取得するのは難しいですか。

3年で学位を取得することは可能ですが、堅実な計画性と地道な努力が必要です。学位の取得はゴールではなく、その後の研究者人生への第一歩です。基礎学力と柔軟な思考力を身に付け、研究力を養うことが肝要です。

Q3 授業料免除などの支援制度はありますか。

各学生の経済状況に応じて、授業料の免除制度、日本学生支援機構による奨学金の他、各種奨学金制度を活用できます。また、大学院に関連する業務を行いながら給与を得ることができる「リサーチアシスタント制度」や、

Q4 受験する前に希望する指導教員を決めておく必要がありますか。

研究費の措置があり、授業料の負担軽減と研究のスムーズな遂行を支援しています。

Q5 留学生を受け入れていますか。

必ず決めておく必要はありませんが、出願前に指導を受けた教員に連絡し、入学後の研究などについて相談することをお薦めします。また、毎年秋に入試説明会を実施していますので、是非、参加してみてください。

Q6 仕事をしながら学位を取得することは可能ですか。

可能です。これまでにも本コースに学んで学位を取得し、活躍している社会人学生がいます。本コースでは、仕事と研究の両立を目指す学生に対して細やかな支援を行います。ただし、勤務先との調整は必要となりますので、事前に相談してください。

Q7 最大何年まで在学可能ですか。

修業年限は3年を標準としますが、最大5年まで在学が可能です。また、在学期間とは別に最大2年まで休学が可能です。なお、総

Q8 課程を単位取得退学したのちでも、審査を受けて課程博士の学位を取得することはできますか。

合研究大学院大学には、仕事、家事、育児、介護など、さまざまな事情がある方について標準の修業年限を超えた期間で計画的に課程を履修することを認める「長期履修制度」があります。長期履修制度についての詳細は研究協力・教育支援係にお問い合わせください。

Q9 在学中に指導教員が変わることはありますか。

単位取得退学後に博士論文を提出し、退学から3年以内に審査に合格した場合、課程博士として扱われます。

Q10 修了後、国文学研究資料館で研究を続けることは可能ですか。

「博士研究員」の制度があります。無給ですが、国文学研究資料館の施設を使用して研究を継続できます。博士の学位を取得後、5年を経過していない者、常勤の職に就いていない者、国文学研究資料館の研究・事業関連の諸行事に協力できる者などが対象です。

国文学研究資料館の概要

◆基盤事業について

日本文学及びそれに関連する諸資料を調査・収集し、データベースとして整備公開するなど、その保存と利用を推進しています。とくに古典籍の画像化は、次項に示したプロジェクト事業とともに文化財危機（原本資料の破損・劣化、自然災害による消失等）への対応ともなり、文化財の継承に大きな貢献を果たしています。研究成果は講演会、展示及び刊行物などにより、公開しています。

①調査と収集

全国の大学等の研究者と連携し、古典籍及び近代文獻、歴史資料の調査研究を行っています。また、各地の図書館・文庫等に所蔵される原典資料をデジタル画像として撮影して収集し、これまでに収集してきたマイクロフィルムとともに一般に提供しています。

②資料利用

当館の図書館では、閲覧・文献複写サービスを行っています。遠隔地の利用者でも、図書館間の相互利用制度や直接申込により、資料の複写等のサービスが利用できます。また、電話等による所蔵調査や文書・FAX・メールによる参考質問も受け付けています。

③日本の古典文化の発信

日本の古典文化とそれに関わる研究成果を社会に還元するため、講座や展示を開催しています。

④古典籍講習会

図書館員や若手研究者を対象に、日本古典籍および書誌学の基礎知識などの修得を目的とした学修を行っています。講師は国文学研究資料館の教員です。過去の講習会テキストは学術情報リポジトリから公開されています。

⑤アーカイブズ・カレッジ

近年、アーカイブズ（公文書や民間資料）の重要性に対する認識が高まり、アーキビストの養成が急務となっています。当館では、このような動きに応えるべく、アーカイブズ・カレッジを実施し、最新の専門的知識、技能の普及に努めています。



アーカイブズ・カレッジ

◆プロジェクト・共同研究事業について

①データ駆動による課題解決型人文学の創成

データ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓

本プロジェクトでは、国内外機関等との連携による更なる画像データの拡充、画像データのAI活用等によるテキストデータ化、データ分析技術開発の推進など、日本文学を中心とするデータインフラを構築し、様々な課題意識に基づく国内外・異分野の研究者との共同による大規模データを活用した次世代型人文学研究を開拓することを目指しています。

②共同研究

日本文学研究の新たな方向性の創出と、研究交流推進のため、多くの若手研究者を迎えて、多様な公募型共同研究や、基幹研究等を実施しています。



国際日本文学研究集会

◆国際交流事業と若手育成

①国際日本文学研究集会・日本古典籍セミナー

日本の文学は世界中で研究されており、多様な研究の視野と手法の共有は、日本文学研究にとって大切な課題です。そのため、国際連携部では、当館創立以来、毎年開催している「国際日本文学研究集会」をはじめ、海外諸機関と連携した「日本古典籍セミナー」や研究集会、シンポジウム開催など、活発な国際交流活動を展開し、国内外の若手研究者の育成と研究交流に取り組んでいます。

このうち「国際日本文学研究集会」の発表者は、研究発表だけでなく、『国文学研究資料館紀要』文学研究篇や英文オンラインジャーナル『Studies in Japanese Literature and Culture』への投稿（査読あり）も可能です。

②特別共同利用研究員制度

日本国内の大学院生を特別共同利用研究員として受け入れ、研究指導を行っています。

◆古典籍文化の利活用と社会連携

①ないじえる芸術共創ラボ

「アートと翻訳による日本文学探索イニシアティブ」「ないじえる」とは当館の英語表記NIJILによる命名です。アーティストや、日本語を母国語としない翻訳家に当館の豊富な古典籍に触れていただき、研究者とのワークショップを通して、古典籍の新たな魅力の発見と、文化芸術的価値の創造を試みるものです。様々な活動をSNSやWEBサイトから発信し、ラボで起る様々な化学変化を広く伝えていきます。



国文学研究資料館外観

②ぶらっとこくぶんけん

国文学研究資料館が位置する多摩地域における学術・文化の発展を目的として、企業、自治体、大学等の各種団体が構成するプラットフォーム「ぶらっとこくぶんけん」を設立し、講演会やデータベスを活用した各団体との連携協力を行っています。